



つながり

自ら動き、感じ、楽しむ ~笑顔あふれる幼稚園~
~やさしく かしく たくましく~

第 2 号
R3. 5. 20
山口大学教育学部附属幼稚園

星組製作こいのぼり(大庭)

雨の日もまた楽し

副園長 大森 洋子

早くも梅雨に入りました。例年より3週間早い梅雨入りにも驚きましたが、史上2番目の早さと知り、もっと早い梅雨入りがあったのかとおしろそちらの方に驚いています。気候の良い季節の戸外遊びをもう少し楽しめたかった気もしましたが、子どもたちの方はなんのその。雨の日の遊びもしっかり楽しんでます。雨の日に子どもたちから「外に行っていいい？」と聞かれたときは、「傘をさしてね」と答えています。雨の中の園庭を歩いたり、水たまりに入ったり、いろいろ見つけたりするのも楽しみの一つで、雨でなければ経験できないこともたくさんあります。先日は星組の女兒が連なって傘をさして誇らしげに築山に登ったり降りたりしていました。あんなふうと一緒に傘をさして移動するのは、星組さんにしかできないことだなどと思って他に目をやると、外に出ようなんて思いつかない花組さんが、先生と一緒に一生懸命粘土を丸めている姿があり、これはこれでかわいいなど思いました。外の星組女兒は、しばらく園庭中を歩いて戻って来ると、きちんと自分達で傘を片付け、「靴下濡れたねー。」と笑いながら一緒に着替えていました。ザーザー降りの中、他に誰もいない園庭を自分達だけで歩くのは、ちょっとした探検気分だったのではないかなと思いました。

どんな体験も当事者であるその子どもにとっては意味あるものですが、それを他人(大人)が感じとったり認めたりするかどうかはいろいろだと思います。何を思い、学び、体験しているのかを感じ、読み取れる大人でありたいと思います。



親子遠足：2転、3転してご迷惑をおかけしましたが、おかげ様で実施できました。ご協力ありがとうございました。「保護者の方がとても協力的で、車道側を歩いたり手をしっかりつないだりしてくださった」「大声も出さず、上手に距離を保っておられた」と、職員一同、保護者の皆様のご協力に本当に感心、感謝いたしました。県庁前地下道や春日山の上などは、身近な場所ですがあまり行くことがないのではないのでしょうか。新たな発見があったらうれしいです。



花組：ダンゴムシどこにいる？



風組：塗り絵を切ってペープサート



星組：自動販売機(コップ式)



カブトムシの幼虫：楽しみだね

昨年度の4月15日から5月24日までは、休園でした。休園があっても、その後の子どもたちは頑張って園生活を送り、りっぱに成長してくれて感心しましたが、なんだか「忘れ物」をしているような感覚を抱いたのを覚えています。今年改めてこの時期を過ごしてみても、「新しい環境に慣れていく時期」、「先生や友達と出会う時期」がどんなに重要なときだったのだろうと思います。少し警戒したり、頑張ってみたり、強がってみたり、目新しさにウキウキしたり、はめを外したり、うれしかったり寂しかったり・・・混沌とした中に子どもたちが自分の居場所を見つけていく過程こそが大事なように思いました。

入園・進級して1ヶ月。落ち着かなかった子どもたちも、自分のクラスが一番落ち着ける場所になってきています。知らない人や自分のしたいことを邪魔する人も「友達」へと徐々に変わってきました。「AちゃんがBちゃんを心配していた」、「新入風組さんが『私のお友達よ』と言っていた」等と職員ミーティングで話しては喜び合っています。これからが楽しみです。

もちろん、いいことやうれしいことばかりではありませんが、どんなことも、後で振り返れば「通らなければならぬ道」であり、「必要なことだった」と気付くものです。変化と成長を楽しみにしながら温かく見守っていきましょう。

やまぐち学園学校運営協議会：やまぐち学園(附属幼稚園・附属山口小学校・附属山口中学校)は、令和元年度よりコミュニティ・スクールとなり、地域の方々や保護者とともに学園運営や子どもたちの健全育成に取り組んでいます。5月11日には、第1回学校運営協議会(委員は16名・全24名の会です)が開かれ、3校園の運営方針を承認していただくとともに、学校園の現状を共有し、今後の活動の在り方等を協議しました。学校・家庭・地域が一体となり、支援・運営・地域貢献を機能させながら、「よりよい未来を共に創り出す人間」を目指して、特色ある「学園」をつくっていきます。コロナ禍で難しい面もありますが、できることから少しずつ進めていこうと確認し合いました。